

My family cat ♡



ねこの 慢性腎臓病の予防

ねこの特性と腎臓病について



ねこの特性について

まずは、ねこちゃんのことを知って
一緒に健康寿命を伸ばしましょう！



変化に敏感

部屋のレイアウトの変更や音、匂いにも敏感なので、トイレの位置や、水飲み場が変わるだけでストレスを感じる子もいる

キレイ好き

グルーミングをよくする
トイレが少しでも汚れていることを嫌う

縄張り意識が強い

安心できる場所を確保する

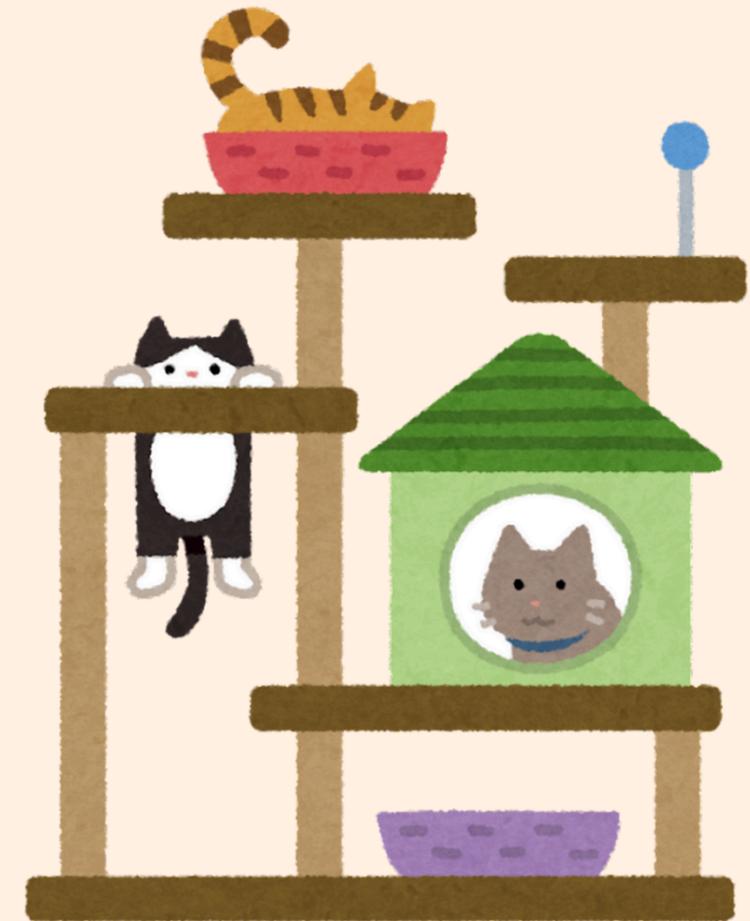


①安心できる環境作り

キャットタワーの設置や高いところの
くつろぎスペース
安心できる隠れ家をつくる
少し暗めのほうが好き

②運動会ができる環境作り

走り回っても大丈夫な場所を確保してあげる
高さがあると更に嬉しい
窓の外の見回りや、上下運動になるように作成
広めのステップにして、滑らないように工夫する



③ トイレ環境を保つ

トイレは基本、頭数+1が望ましい
毎日こまめに掃除をし、
静かな場所で落ち着いて排泄できる環境を作る

⑤ 快適な温度

暑いのも寒いのも嫌い
18から26°Cくらいの設定
冷房の直風は嫌うので
温度管理のできるような工夫を

④ 飲水場所の確保

水置き場は頭数+1~2が望ましい
ご飯と水はトイレから離し、
落ち着ける場所で用意する
水の温度にも注意する (15°C前後)



ねこが かかりやすい病気

- ① 泌尿器疾患
- ② 消化器疾患
- ③ 感染症
- ④ 甲状腺機能亢進症
- ⑤ 糖尿病
- ⑥ がん



次はねこちゃんに多い
腎臓病のおはなし



腎臓ってどんな臓器？

腎臓は、腰のやや上部の背中側に、左右にひとつずつある

腎臓には糸球体と尿細管からなる

「ネフロン」が、猫は約40万個あるといわれている

糸球体は血液を濾過するフィルターの役割がある

糸球体を包むボーマン嚢で濾過した液を受けて

尿細管へ尿として排泄する



腎臓の役割

①老廃物を尿として排泄

食事や体の代謝で出たアンモニア、尿素、クレアチニンなどの排泄物を腎臓で濾過して尿として排泄する

②水分バランスの維持

体内の水分量を保つために、余分な水分を排出し、必要な水分を再吸収する



③電解質バランスの調整

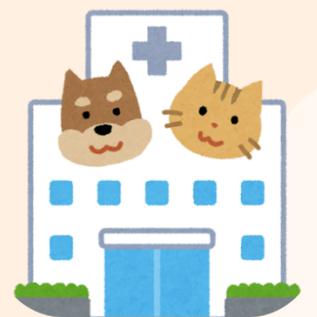
ナトリウムやカリウムなどのミネラルの調整

④ホルモンの産生と血圧調整

赤血球を作るために必要なホルモン（エリスロポエチン）の分泌や、血圧を調整するホルモンの分泌

⑤カルシトリオール(活性型ビタミンD3) の体内合成

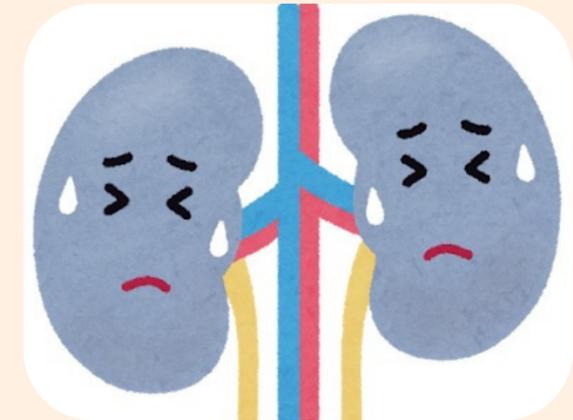
カルシウムの吸収に必要なビタミンDをカルシトリオールに変換しカルシウム吸収を行う



腎臓病とは

急性腎障害

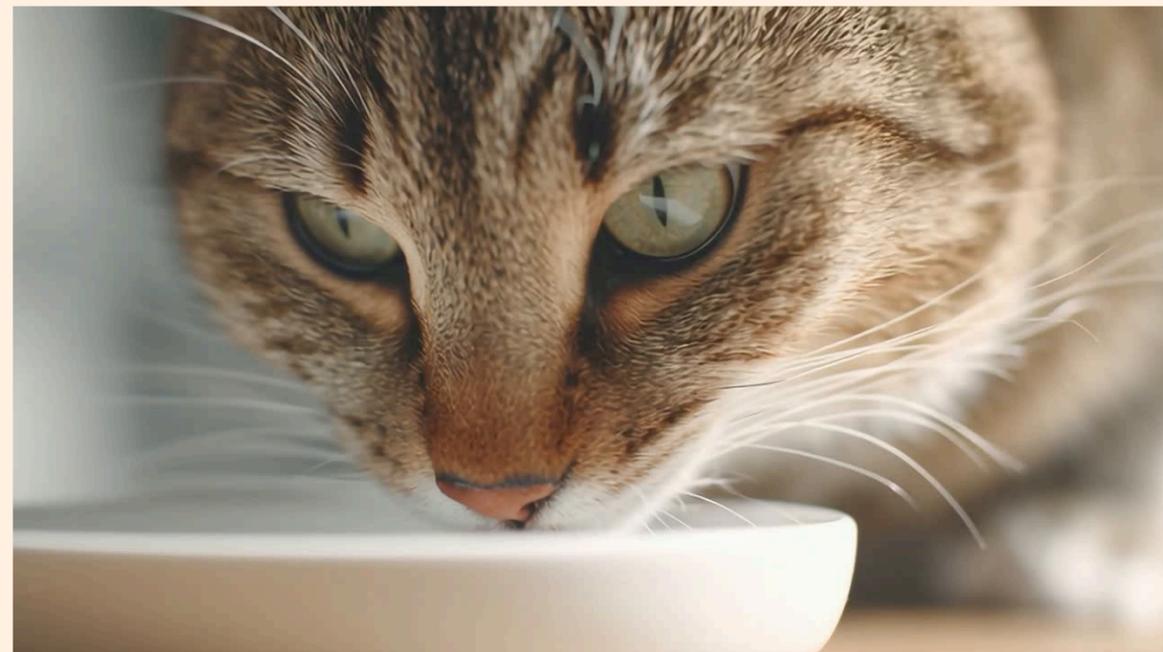
● 短期間で急激に腎機能が低下すること
中毒や重度の脱水、尿路閉塞などでも起こる



慢性腎臓病

● 数ヶ月かけて腎臓の機能が低下すること
不可逆的
症状に気付いた時には腎臓の機能が7割以上失われていることが多い

慢性腎臓病の症状



多飲多尿

毛艶が悪くなる
フケが増える

体重減少
元気消失
食欲不振

嘔吐
下痢
便秘

口臭がする

早期発見で
進行を穏やかに
できます🌿

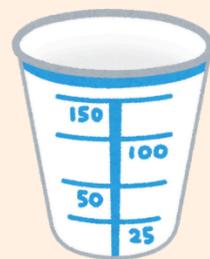
検査を行い状態のチェック🔍

①血液検査

BUN（尿素窒素）、CRE（クレアチニン）
IP（リン）、Ca（カルシウム）
SDMA（早期発見に有用）などで評価する



②尿検査

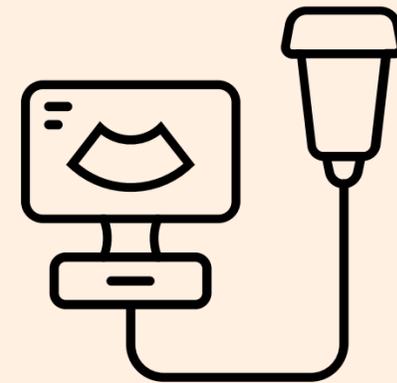


尿比重（多飲多尿での尿比重の低下）
たんぱく尿（UPC測定）

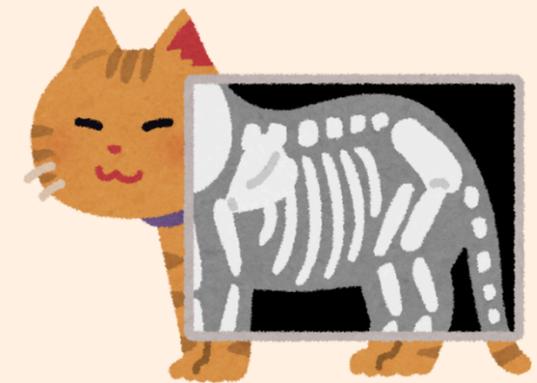


③超音波検査、レントゲン検査

腎臓の形、構造、大きさの確認



④血圧測定

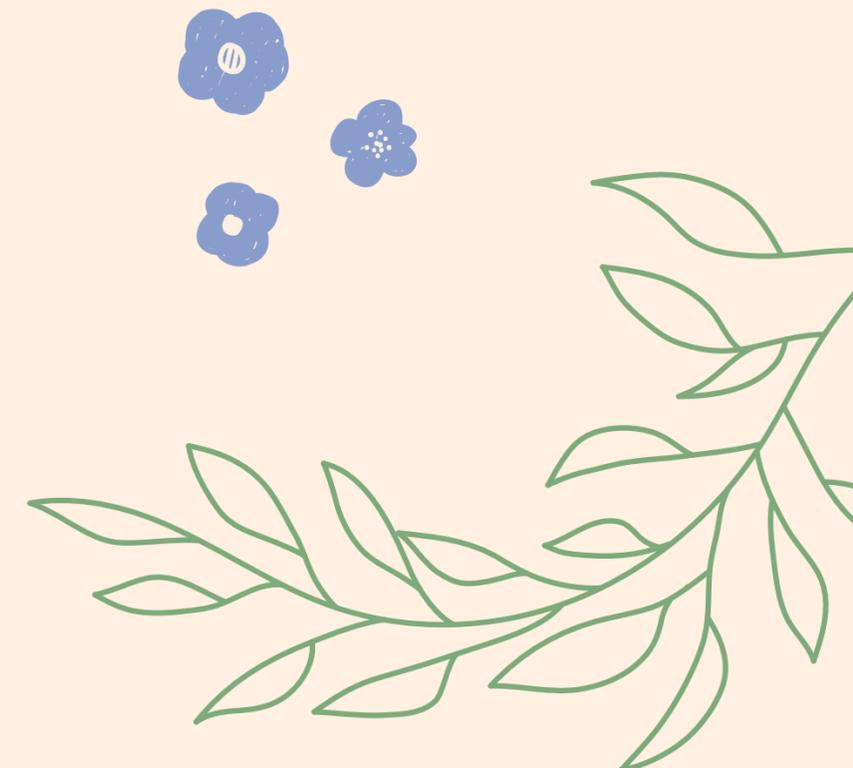


腎臓の体液調整機能が低下 → 血圧上昇 → 高血圧が腎臓に負担をかけさらに機能低下 → 血圧上昇、という悪循環に陥りやすい
高血圧により、網膜剥離（失明）、脳出血、心臓病などの原因にもなる

IRISステージ

猫の腎臓病のステージングに、**IRIS**（国際獣医腎臓病研究グループ）分類が使われる

- **ステージ1**（ごく初期）検査をしないと分からないレベル
 - クレアチニン：正常
 - SDMA：やや上昇することあり
 - 症状：ほぼなし
- **ステージ2**（ここで発見できるのが理想）
 - クレアチニン：軽度上昇
 - 多飲多尿が出始めることも
- **ステージ3（中等度）治療管理の必要なレベル**
 - クレアチニン：明らかに高い
 - 食欲低下・体重減少・嘔吐
- **ステージ4（重度）生命に関わる状態**
 - クレアチニン：高度上昇
 - 強い食欲不振・衰弱



治療

① 食事療法

良質なタンパク質、低リン、ナトリウム制限



② 脱水を防ぐ

皮下点滴やウェットフードで水分補給



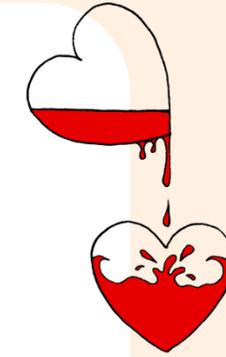
③ 血圧測定

高血圧の場合はアムロジピンなどの降圧剤の投薬
合併症である網膜剥離や脳障害を防ぎ腎臓の悪化を防ぐ



④貧血の治療

腎臓の役割のひとつで、赤血球を作るため
腎機能の悪化で腎性貧血になる
エリスロポエチンや鉄剤を注射する



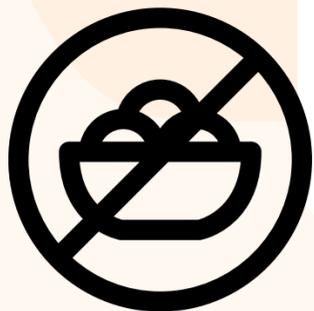
⑤リンを下げる

療法食やリン吸着剤を使用



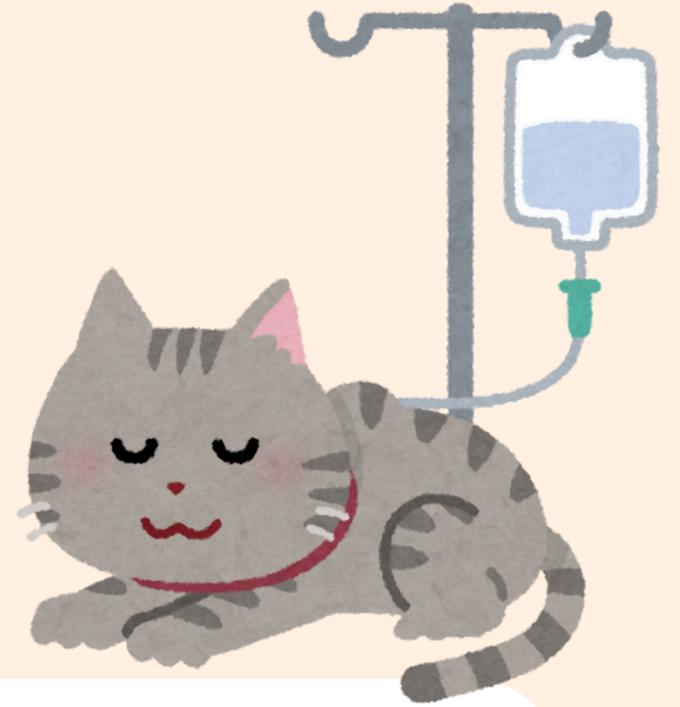
⑥食欲不振に対して

食欲増進剤（ミルタザピンやエルーラ）の使用





⑦毒素による吐き気の治療
制吐剤（マロピタット）や胃薬の使用



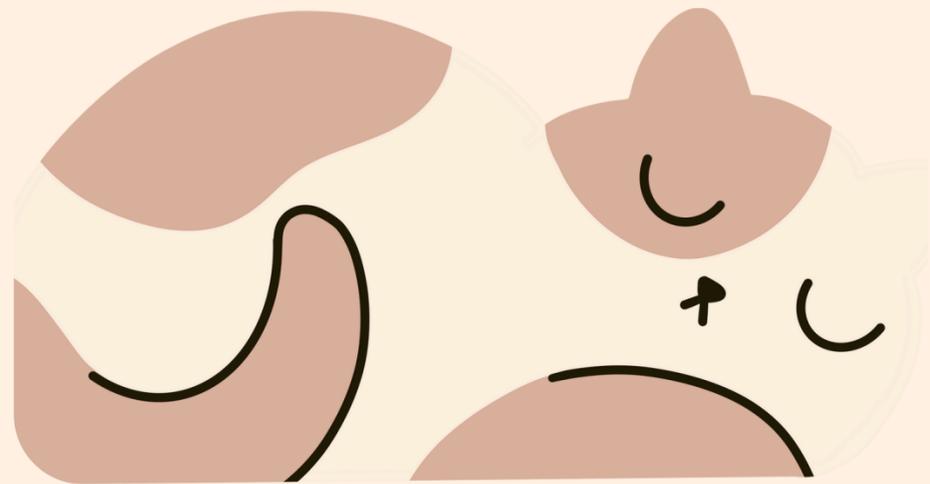
⑧カリウムの補充

多飲多尿や再吸収機能が壊れることにより減るカリウムをサプリメント（リーナルK）や投薬（グルコン酸K）や点滴に補充する



病気のことは
分かったけど...

そもそも、なぜ猫に多いの？

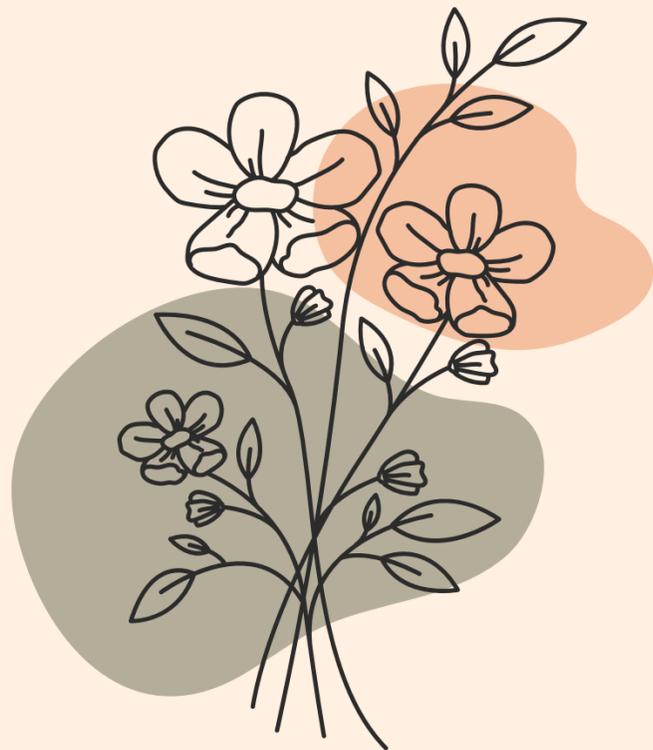


猫の祖先は、中東の砂漠地帯に生息していた
リビアヤマネコ（アフリカヤマネコ）と
いわれている。

そのため、水分をあまり必要としないので
濃縮尿を作る機能が発達していて腎臓に負担を
かけやすい。

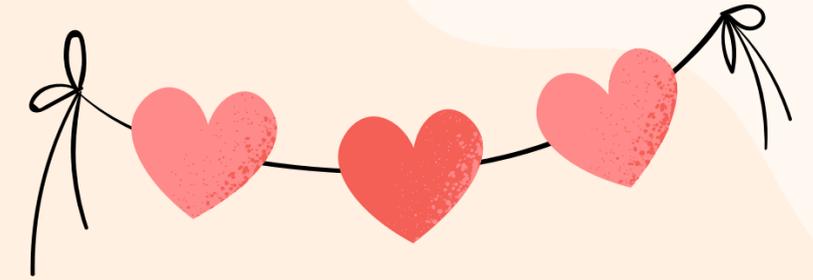
なので、犬よりも腎臓病が多いといわれる。

ねこちゃんの体質に合わせて
今からできることは予防



① 飲水量の管理（1日1kgあたり50ml）

飲水場所の確保やウェットフードを足す



② リンの多い食事をしない

リンの蓄積で腎臓に負担をかけてしまうので注意

イワシ、カツオ、牛乳、チーズ、煮干し、総合栄養食でないおやつ

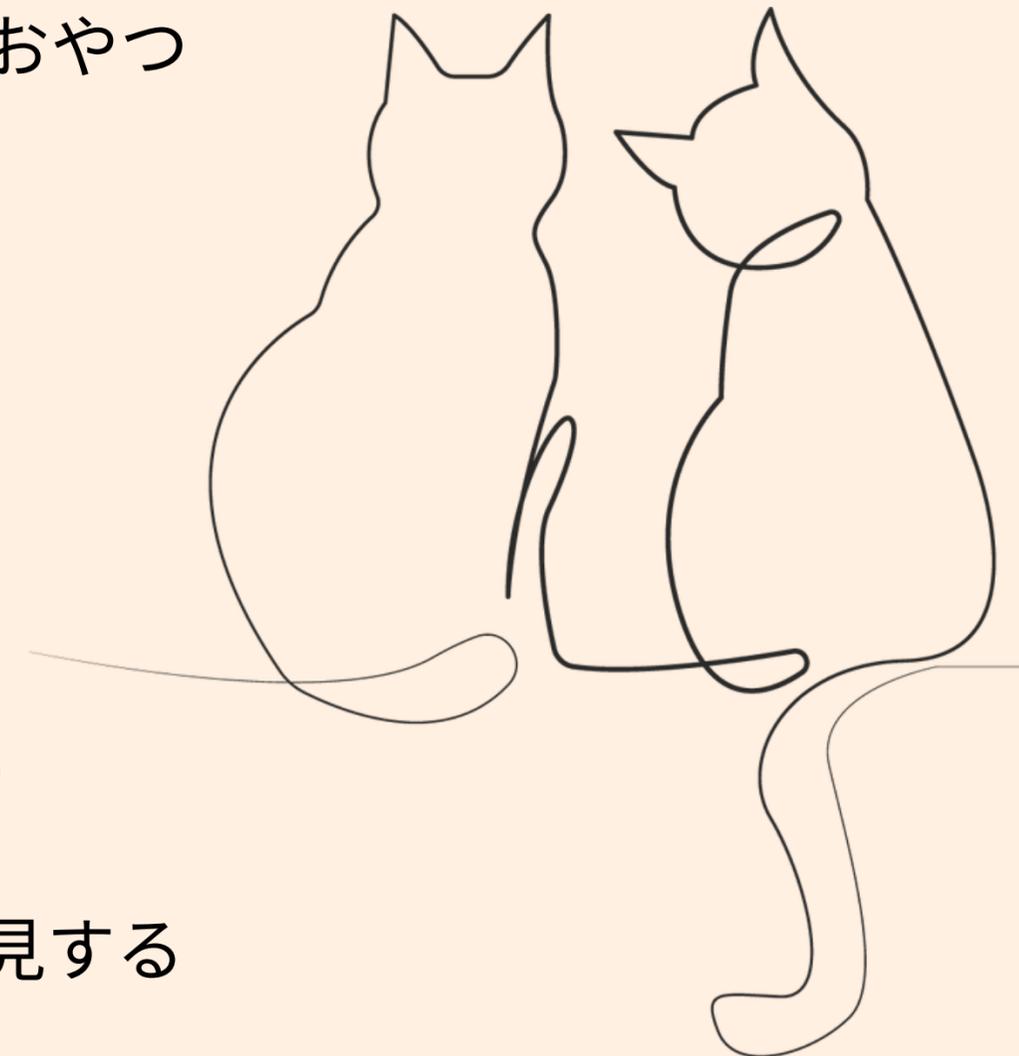
③ 歯周病や肥満に注意する

口内細菌により全身に悪影響を及ぼす

肥満になることで、高血圧になりやすく腎臓に負担をかける

④ シニア期（7歳）からは半年に1回の健康診断

最低でも年に1回は血液検査、尿検査を行い、病気を早期発見する





おわりに

猫の1年は人間の4年に相当するため
半年に1回の定期健康診断をおすすめしています
(当院でのお得な健康診断プランが受けられるのは
3月～6月、10月～11月)



早期発見、早期治療をすることで
病気の進行を緩やかにすることが可能です

予防的に愛猫の様子を見ることが
猫の性質を理解した上で
予防医療にも取り組むことが大切です



ねこの慢性腎臓病予防
ご覧いただきありがとうございました

閲覧終了🔑neko22

